坂本町の復興に向けた説明会

日時・会場：　午前の部：令和４年３月６日（日）１０：００　坂本コミュニティセンター
　　午後の部：令和４年３月６日（日）１３：３０　坂本コミュニティセンター

対象者：　坂本町住民

出席者：　坂本町住民　午前の部５５名／午後の部５６名
　　国土交通省　午前の部４名　／午後の部３名
　　熊本県　午前の部６名　／午後の部８名
　　報道３名（３社）
　　八代市１２名

○概要

※冒頭に国土交通省八代復興事務所から流出した橋梁の復旧について説明

（１）各担当課より説明

・坂本支所周辺のまちづくりについて
・避難先の確保や新たな防災拠点の検討状況について
・医療サービスの提供について
・復興まちづくり計画について

（２）質疑応答

○質疑応答

～午前の部～

【意見・質問等】
支所周辺のまちづくりについて、学識者懇談会の附帯意見で、新坂本橋の高さ及び県道の改良については今後も国・県と協議を行うこと、となっている。新しく支所ができる付近のかさ上げについては、国では１．５ｍ上げ、市では３．０ｍと考えていると聞いているが、この付近では３．０ｍかさ上げをすることになるのか。

【回答】
支所の再建位置を決定した際の方針の一つとして、治水対策で水位が下がることが前提である。支所周辺については、豪雨災害を踏まえて３．０ｍ程度のかさ上げを行いたい、という方針である。坂本橋についても本格復旧に向けては、被災したこれまでの橋よりも高くなるという説明を受けている。橋の高さも概ね示されているため、橋に取り付ける道路の高さ等については、引き続き国や県と協議したいと考えている。特に支所等の配置を考えている県道より山側については、３．０ｍ程度のかさ上げを行いたいと考えているが、前面の道路については敷地の接続の問題など利便性も考慮して検討したい。

【意見・質問等】
県道よりも山側については３．０ｍのかさ上げということだが、その他の道路や堤防についてはそこまでの高さにならないということか。２月２２日の[redacted]の報道では、ダムや遊水地・河川の土砂撤去などを今後進めていくものの、３０年ぐらいかかるといった記事があった。３０年間このような対応で同じような災害が発生した場合には、なかなか対応できないのではないかという気がするし、道路の堤防が１．５ｍのかさ上げということであれば、庁舎部分を３．０ｍかさ上げしても、道路が使えない。堤防の上を水が越えて流れてくるようになれば今までのような対応では厳しいのではないか。そうなった場合の対応は考えているのか。

【回答】
球磨川流域の治水対策が完了するのには数年はかかるということであるため、まずは命を守る対策として集落への衛星携帯電話を配置や、避難訓練なども実施している。命を守るソフト対策を引き続き実施していくこととしている。財産を守ることについては、住宅の保険料に対する補助を考えており、水災に対する補償の部分について支払いをされている部分の負担の軽減を図りたいと考えている。

【回答】
河川の対策について３０年という話があったが、これは河川整備計画というものを策定するために議論しているなかで、球磨川全体の安全度を上げるために、人吉は５０分の１、八代は８０分の１、また八代はもともと１００分の１だったところを８０分の１という段階的な整備の目標の期間として示しているものである。一方、令和２年７月豪雨対策については緊急対策プロジェクトを策定し、遊水地、河道の掘削、宅地かさ上げ等、概ね１０年間を目標に推進することとしており、ダムについての工期を示しているなかでは１０～２０年の間ぐらいということで議論が進められている。

【意見・質問等】
西部地区については今泉公民館が避難所として示されているが、右岸の県道沿い、左岸の国道沿いの両方に集落があり、住民の数としては右岸が多い。今次災害で西部地区多目的集会施設が浸水したため避難所としては使用できないため今泉公民館ということになった。西部大橋について令和２年７月豪雨の際は無事であったが、次豪雨時に右岸の住民に西部大橋を渡って今泉まで行ってくれとは言えない部分もある。西部地区多目的集会施設も整備して、そこも再度活用していくという計画はないのか。

【回答】
今泉の公民館に関しては指定避難所として昨年から運用を開始している。指摘の通り右岸側については西部多目的集会施設が今次豪雨で水没した関係で避難所として指定することはできないということではずしたところである。しかしながら住民には不便な部分もあるため、自主運営避難所制度という形で、住民がより身近な施設で避難できる仕組みの制度設計を検討している。公民館等を避難所として利用することを希望する場合には申請をしていただければ、ハザードマップ等を参照して安全性を確認できれば積極的に運用していきたいと考えている。

【意見・質問等】
防災拠点の整備について、今回の災害では道路が各所で寸断され、懸命に復旧されているが、まだまだ片側交互通行の区間も多い。防災拠点を１０箇所程整備しても、そこに行くための国道２１９号線が寸断されたらどうにもならないため、国道２１９号線の強靭化が最重要課題ではないかと個人的に考えている。交通事故も発生しているため、カーブをなくして事故も発生しないような国道２１９号線の強靭化を図っていくことが重要ではないかと考えている。検討状況の中には特に盛り込まれておらず、復旧だけはやっているが、新たな危険個所なども調査した上で、災害が起こっても国道だけは大丈夫というような道路づくりが必要ではないか。

【回答】
国道２１９号線の強靭化については、復興まちづくり計画の中では「避難ルート」という形で、例えば西部地区の計画を見ていただくと、まちづくりプロジェクトのなかで「道路の安全性向上」ということで避難ルートとしての役割も果たす道路の安全性向上に向けて国・県に要望していくということで方向性として示しているところである。中津道地区についても「道路の安全性向上」ということで記載している。発災時の避難の方法についてはソフト対策を含めて検討していきたいと考えている。

【回答】
道路管理者は県であるため、補足させていただく。昨年の２月に策定された坂本町復興計画のなかにも「社会基盤防災の再生」という項目があり、防災・減災のための基盤整備という項目が記載されている。その中で道路ネットワーク構築が重視されており、県としても後押しできるようにと考えている。道路の状況としては、まずは災害で壊れたところの復旧をやっているが、多雨期が終わり川の水位が下がったところで国に本格的な工事に着手してもらっている。かなりの距離が被災しているため、まだまだ時間がかかる。更に単なる災害復旧だけではなく「ネットワークの構築」ということで、避難場所があってもそこまでたどり着けなければいけないため、今回の災害で崩れた箇所だけではなく、崩れなかったが弱くなっている箇所も国が調査を行っている。ブロックが残っているが下のほうが壊れているような場所も含めて対応していただき、道路が強くなる強靭化ということでお願いして、国も取り組んでいるところである。

【意見・質問等】
[redacted]肥薩線について何の情報もないということはおかしい。公共交通機関なのであるならば、[redacted]から誰も出席していないというのはおかしいのではないか。それと[redacted]の瀬戸石ダム。[redacted]を復旧するのであれば、安全確保のために瀬戸石ダムを解体する必要も出てくる。そういうことをお尋ねする相手がこの場にいないため、次回はぜひ[redacted]あるいは[redacted]にも出席していただいて回答いただけるような場にしてもらいたい。二点目、デジタル医療 MaaS について、慢性医療に対応するという説明だったが、急性はどうするのか。全国的にも数箇所しかやられていないというのは不安がある。急性疾患の時にモバイルで対応できるのか、といった点はどう考えているのか。五家荘には診療所があるが、それは評価されていないのか。

【回答】
[redacted]肥薩線については市としても新聞報道等で承知している以上の情報は持っていないが、沿線自治体で連携して早期の復旧を要望しているところである。瀬戸石ダムについても地域の皆さんに不安があることを[redacted]に伝え、丁寧な説明をお願いしたいということで要望している。

【回答】
デジタル医療 Maas は対面診療ではないため、慢性疾患の患者さんが対象と想定している。急性疾患についてはこれまで通り、救急車や総合病院等での対応になる。五家荘の椎原診療所については市で設置しているが、医師の確保が難しくなっている状況である。坂本町でも令和７年度以降、支所周辺に医療を提供する場を設置する方向で検討を進めているが、医師の確保が難しくなる可能性もあるため、椎原診療所の例なども参考に検討していきたいと考えている。

【意見・質問等】
中谷地区の地区別懇談会で時刻の放送を、以前は「おはようございます、ただいま時刻は７時です。」など、何を言っているのかわからないという声や、緊急放送ではないのかという受け止めで、気持ちが悪い。以前のような音楽を流してもらいたいと市長に要望し、早速２月１日から音楽が流れる。欲を言うと、音楽の最後が尻切れトンボというか、曲が自然に消えるのではなくプツっと突然切れるため、音楽は皆さん親しまれて、音楽で皆さんの心が和むというか、励ましになるため、そういう事も考えて丁寧な流し方をしてもらいたい。雑にならないで、丁寧な曲の流し方をして欲しいと思う。内容もよかったら昔のようにエーデルワイスなど文化的だったらいいなと思う。これは私だけでなく、女性の方からの声があった。中谷地区の避難所の問題について、さかもと青少年センターを避難所にするということで示された。以前はなかなかそれが認めてもらえなかった。今度さかもと青少年センターを避難所にと、身近な避難所に認めてもらえてよかった。一方で土砂、山からの傾斜地で危険ということもあるので、その対策もぜひお願いしたい。先ほどかさ上げのところで、支所周辺については３．０ｍのかさ上げということで計画しているとのことだが、議会の資料を見ると、かさ上げは１．５ｍで、ピロティ形式にすることで対応するという説明があったということでちょっとおかしいなと思った。宅地を３．０ｍかさ上げするのか、国は１．５ｍで残りの１．５ｍは建物をピロティ方式にするということなのか。ここのところは全体に影響してくるため、市が言うようにぜひ宅地として３．０ｍのかさ上げをしてもらいたい。住まいの問題で、やはり坂本に住みたいという人もいるが、そういう人からは、かさ上げするには個人負担もあるという話が聞かれる。これはどうかと思う。要するに自然災害であるため個人ではどうしようもない、そしてそういう人たちは着の身着のままで避難したため財産もなくしている。相当の出費があるなかで、かさ上げするときに個人負担を求めるというのは

あまりにも冷たいやり方ではないか。国でそういった説明をしたのであればちょっと考えを見直してほしいというか、被災者に寄り添う、安心して坂本に住み続けられるような治水対策をやって欲しいと思う。そこはぜひ国にお願いをしたい。よろしくおねがいしたい。最後にデジタル医療 MaaS について、以前から一日も早く坂本に診療所をつくってほしいと要望してきた。市長が何とかしないと、ということで知恵を出したのかもしれないが、全国でそういうことをやっている所があるからと推測するが、実証実験ということで伊那市の話を聞くと、まだ実験段階で、国が９割をみてくれる実証実験というかモデルとしてやっている事業であるようである。これが本当に住民の皆さんの少しでも助けになればということでやっていると思うが、国の補助金がなくなって市だけでやるとなると、相当出費が増えるのではないかと思う。その点でも慎重に、実証実験は良いと思うが本格的にやるときには、費用対効果なども相当慎重に考えてもらいたい。ぜひ令和７年度に診療所が作られるということが具体的にされているが、それまでの事業としてされているのだと思うが、目的とはちょっと違うのではと思う。怪我をした場合にすぐ近くに診療所があれば行けるのに、八代まで出て行かないといけない。移動診療車がすぐ来るかというとそうではない。デジタル医療 MaaS は慢性疾患の人だけが対象。診療所では少し役割が違うのではないかと思っている。

【回答】
放送の音源が尻切れトンボになっているという点は、早速調査したい。放送については放送装置自体の正味３分間の音源を保存できるようになっており、要望に応えたい部分もあるが、データの容量も限られており、現在放送している曲に３０秒間を割り当てているためご理解いただきたい。中谷地区の避難所については、現状ではさかもと青少年センターの分館を指定している。本館を避難所にして欲しいという要望があるが、本館は校舎がレッドゾーンにかかっているため指定できていないが、対策について技術的な部分も含めて検討を行っており、そういった検討が完了して安全性が確保されれば本館の指定避難所の検討をしていきたい。

【回答】
支所周辺の再建について、ピロティか盛土かどちらなのかという質問に関して、１．５ｍのかさ上げ、ピロティ化をするということは、議会ではなく、支所周辺のまちづくり学識者による第１回学識者懇談会のなかで、イエローゾーンに該当するため、その対策の検討が必要との指摘があり、イエローゾーンは法的な対策義務はないものの、公共施設であり地域住民の利用も多いため、ピロティ化で建物下に土砂を流れるスペースを作る、対策の一つとして示した案である。支所の再建を進めるにあたって、どういった形で進めていくのかと先ほど質問をいただいたが、市としては３．０ｍのかさ上げを考えているが、実際は３．０ｍなのか２．５ｍか、あるいは１．５ｍなのかを厳密に言える段階ではない。早急に検討を進めるが３．０ｍかさ上げという意見があったということで受け止めさせてもらいたい。また支所とコミュニティセンターの再建については、地域の意見を踏まえながら進めさせていただく。

【回答】
宅地かさ上げに係る補償の部分で、負担額がどうなるのかについて。従前では河川事業におけるかさ上げの補償ということで、補償内容の説明をしたところである。具体的には実際に調査を実施して補償金等が決まることになるため、その中で改めて協議を行うことになると考えている。

【回答】
移動診療車、デジタル医療 MaaS については、全国的に３件の取組事例があるが、いずれも実証事業と

なっている。本市でも１月から実証事業として実施した上で、令和６年度から本格運用できればと考えている。本格運用となれば、全国で初めてである。財源については地方創生の交付金、令和４年から６年までの３年間、２分の１の補助率となる交付金を活用していく予定である。診療所について、令和７年度の坂本支所再建後、周辺に医療を提供する場を確保する、ということだが、具体的な内容については医師会などと協議を進めているため、決まりしだい改めて説明したい。

【意見・質問等】
油谷に迫川というのが流れており、砂防ダムが２基設置されている。ダムの下には集落がある。ダム下部が穴あきになっているため普段はその穴から水が流れているが、砂防ダム自体が土砂で満杯になっており、果たしてこれが大丈夫なのか、と日頃から思っているところである。少し雨が降るとダムの上から滝のように水が落ちてくる。ダムの下に住んでいる人は非常に不安がっている。砂防ダムの堆積土砂は取り除くことはできないのか。取り除くことができるのであれば、取り除いた方がいいのか、またある人は、砂防ダムは土砂が堆積してからが強いという話をするが、私は素人考えではあるが、やはり土砂を取り除いた方が砂防ダムは強いのではないかと思う。砂防ダムの堆積土砂を取り除くことはできないのか。

【回答】
昨年の３月から４月頃の説明会でも上がってきた内容であると承知している。指摘の通り、土砂が満杯になることで安定する砂防ダムもあるため管理者に確認をさせていただく。

【回答】
地域要望の中でも上がってきた内容である。具体的な回答内容は現在回答することができかねるが、回答については住民自治協議会に渡している状態である。一旦は回答したが、再度、坂本建設地域事務所に対応等については対応を伝えたいと思う。

【意見・質問等】
中津道地区では上鎌瀬公民館が避難所として指定されている。今後、中津道社会教育センターのところに公民館ができるということを聞いているが、そうなればそちらが新たに避難所になると考えてよいのか。もう一点、水災保険補助金について、宅地がかさ上げになり水災保険を外したため使えなかった。すぐに加入したが、補助は新たに加入した人だけが対象となるのか。また、災害時には携帯電話が通じなかったのが一番困った。逃げるにも逃げられない。体調不良者が何人いるのか等が分からなかったため、命を救うために、特に山間地では衛星電話が必要である強く感じた。衛星電話は一番近代的な道具で、素晴らしい取り組みであると思った。衛生電話は下鎌瀬・上鎌瀬・西鎌瀬といった集落単位で１台ずつ配置するのか、それとも中津道校区全体として１台となるのか。ぜひとも集落ごとに配置してもらえれば、外部との連絡ができ、例えばヘリでの救助を待つ間も１日、２日と不安がらずに過ごすことができる。お金がかかることなので申し訳ないが、そういう配置をしてもらえれば何があっても生き延びることができると感じている。よろしくお願いしたい。

【回答】
中津道社会教育センターを解体して災害公営住宅を建設することになっており、あわせて「みんなの家」という形で集会所を整備する予定である。これまでも、中津道社会教育センターに避難したいといった意見も聞いているため、「みんなの家」が完成すれば、それを避難所として指定することを検討していく。衛星携帯電話については旧小学校８校区単位で１台ずつ配備している。昨年の出水期前に

各地区の消防団がいるところに配置しており、非常時等で消防団が出動する際には地区の区長に預けるような運用となっている。各集落に配置して欲しいというご意見だが、当面はこの１台で運用したいと考えている。

【回答】
水災保険について、補助制度は令和４年度からの新規事業ということで進めており、令和４年度からの支払い分について補助していくものとなる。複数年契約で、例えば５年間ということになると年割で年度ごとに支払うことになるため、契約内容と期間内にもよるが、翌年度は再度手続きをしてもらうことになる予定である。

【意見・質問等】
いくつか質問がある。一点は、今日の資料の中に防災拠点の検討状況についてという資料があるが、八代市のホームページのＷｅｂのハザードマップが以前からそのままになっているため早急に更新をお願いしたい。自宅が油谷川沿いの支流に住んでいるが、先日、市の職員が個別に住宅を訪問して宅地かさ上げがよいか、輪中堤がよいかの意向を聞いていたが、そういうものはまず地区で説明会を開催してもらいたい。油谷川沿いは熊本県が担当ではないかと聞いているが、県はどういう認識であるのかを確認したい。復興まちづくり計画（案）の地区別の案を出してもらっているが、全体のまちづくり計画案を見てみたら、まちづくり計画の構成が、地区別計画と災害公営住宅の整備と坂本支所を中心とした拠点の形成、避難先の確保や防災拠点の整備、と４つの大枠があるようである。本日はこの計画の概要資料がないようであるため、ホームページを見ながら今話している。この４つの枠のなかで、災害公営住宅の整備についての説明が本日はなかったため質問したい。噂での話だが、坂本駅前に整備予定の災害公営住宅についてはまだ申し込みができるという噂を聞いたがそれは本当か。被災者にはそういう話が一切ない。その点の確認をしたい。この復興まちづくり計画（案）の策定にはコンサルタントが関わっているということで先日の懇談会でも聞いたが、計画（案）自体は八代市で作っているのか、コンサルタントが作っているのかを聞きたい。また、コンサルタントはどのように関わっているのかも質問したい。最後一点、瀬戸石ダムについて。夏に開催された流域プロジェクトの説明会の際に、瀬戸石ダムの河川カメラについて質問した。その時は資料がないため設置の有無は分からない、設置することもやぶさかではないとの回答であった。それ以降、カメラは設置されているのか。設置する予定はあるのか。確認したい。先週金曜日に八代市のホームページを見たところ、[redacted]に要望書を八代市から出したと掲載されていた。その中で、決壊ハザードマップを[redacted]に作成するよう要望していたが、八代市は決壊ハザードマップを作る予定はないのか。以上を確認したい。

【回答】
Ｗｅｂ版のハザードマップの更新が載っていないとのことであったが、ハザードマップのＷｅｂ版については年に１回更新を行っており、県河川のＬ２（想定最大規模）の見直しも逐一進めているため、その部分の整理ができた段階で、Ｗｅｂ版のハザードマップを更新する予定である。瀬戸石ダムについては管理者の[redacted]でカメラを設置しており、画像の活用について協議を実施しているところである。決壊した場合のハザードマップについて、市としてはダムが安全なのか安全ではないのかがポイントになるため、まずは今回の要請でも安全性について見解を聞いているところであり、安全性について住民の皆さんに説明してもらうように要請している。

【回答】

宅地のかさ上げ・輪中堤については、まずは集落で住まいの再建をどうしていくかということで説明会や懇談会を開催しているが、油谷地区については説明会等の開催の要望が出てきていないため、まずは個別にヒヤリングさてもらったものである。ご理解いただきたい。まちづくり計画のところで、災害公営住宅については、噂というより、もともとご説明していた通り、昨年１１月に本申込みを締め切り、集落での災害公営住宅の場所を決定したところである。確定はしているものの、被災者の方のなかには、まだどうするのか迷っている方がいることも聞いており、住宅課や支え合いセンターで迷っている方にヒヤリングしながら決定をした。しかし時間が経過するなかで、やはり坂本で災害公営住宅にと考えられるということであれば、坂本駅前であれば、まだ具体的な戸数を決定していないため、ご希望があれば住宅課に相談いただきたい。コンサルタントとの関わりについてだが、昨年度の復興計画、この復興まちづくり計画の策定は全て八代市で実施している。復興まちづくり計画を策定する上で、資料作りやデータ整理などはコンサルタントのほうが詳しい部分があるため、復興まちづくり計画を策定するにあたって必要な資料の提供や再編などを手伝ってもらっている。

【意見・質問等】
災害公営住宅について、被災者側としては締め切りました、と受け止めている。それで何月までなら大丈夫らしいよ、という話を聞いたので、何人かに聞いたら、え、そうなの？という反応がほとんどであった。市の意向が被災者に全く伝わっていない、ということをお伝えしたい。今でも申込ができるのであれば、いつまでであれば追加可能か、どの場所であれば可能かといったことについて再度通知してもらいたい。

【回答】
基本的には先ほど申し上げた通り、昨年１１月の本申込みで締め切り、確定しているという状況である。迷っていらっしゃる方については個別にヒヤリングを実施した。そこの情報発信については住宅課と協議させていただく。

【意見・質問等】
二回目で申し訳ない。先ほどの国交省からの宅地かさ上げは個人負担を求められている、という話のなかで、費用を換算して示すということをしてしまえば、その後は個人が業者に頼んでかさ上げをやってくれ、という話を聞いた。個人で業者を呼んで事業をしてもらうということは無理な話であり、個人では対応できないということで、諦めた人もいる。坂本に住みたい、かさ上げを求めている人に対して、ちょっと冷たい、切ない対応ではないか。意見を出し合うにしても、国が責任をもって宅地かさ上げまでやってあげるといった立場で臨まなければならないのではないか。住民が納得できる施策や事業になるように支援してもらいたい。かさ上げができるのであれば、そのための補償をしてそれが実現できるように国としても支援していかないと、もうやめた、というふうになってしまう。みんな坂本に住み続けたい。先ほどの説明では不十分である。もう少し説明してもらいたい。西部地区の段・横石・小川・古田などは内水氾濫。山側からの水が入ってきて、球磨川は越流しなかったが、水がはけずに浸水した。地元の人の話だと、以前から頻繁に内水氾濫があり、何とかしてくれということでポンプアップの話もあったようだが、ずっと以前から私は袈裟堂川をまっすぐに球磨川に流すのではなく、錦町にあったような導流堤という形で斜めに球磨川の下流側に向かってひっぱっていけば流れるのではないかと思う。それを検討してもらいたい。ポンプアップでは何十台も要るのではないかなと思う。ポンプアップで十分できればいいのだが、それが難しいということであればそういった方法も検討してもらいたい。

【回答】
宅地かさ上げの補償について、国でも坂本地区の継続的な発展のために河川事業をやらせてもらっているが、制度上の制約もあって、ご要望に添えない部分もある。どのようにかさ上げ事業を進めていくかは引き続き皆さんと協議しながら、まちづくりとも連携しながら進めていきたい。また用地についても、前倒しで取り組んでいきたい。袈裟堂川については市と国とでどういう対策をやっていくかということをしっかりと検討していきたいと考えている。提案についても効果があるかどうかも含め確認したい。

【回答】
八代市としても連携して取り組むということで、協議の場には同席して内水対策を検討していきたい。

【意見・質問等】
避難所の整備をするとのことで、１０箇所の指定避難所については必要に応じて不備を改善するという話だが、必要に応じて、という言葉がある。同じグレードで整備を進めていくのか。整備をされるとしたらいつまでにされるのか。自身が住んでいる鮎帰にある鮎帰社会教育センターでは、トイレが使用できない、道路が通行できないといった状況となっているが、改善されるのか。また病院について様々な質問があっていたが、現在ちょうどコロナの時期で、熱が出た、しかしどうすればいいのかわからないということも起こっている。坂本町には現在病院がないため、人口減少が著しく進んでいる。医師会等との協議中ということだが、少しでも早く方針を示してもらって住民の不安の軽減を少しでも図ってもらいたい。国道２１９号の強靭化について、以前は国道２１９号の高さも考える必要がある、といった話があったと記憶している。しかし実際は不可能ではという話もした記憶がある。国道２１９号の高さはもう決定されたのか。

【回答】
避難先の整備については、各１０箇所を避難所に指定しているが、大事になるのが避難先の住環境、空調やトイレなどであると認識しており、整備に不備があるところについては計画的に整備していきたいと考える。ご指摘があった鮎帰地区の社会教育センターについては地区別懇談会でも切なる要望があり、令和４年度予算で改善を提案しているため、議決後にきちんと住民に説明に行きたいと考えている。

【回答】
医療施設について、現在コロナ禍で医療受診ができないということと理解している。医師会、病院、県の保健所などとの協議を進め、できるだけ早く方向性を示したい。

【回答】
国道２１９号の高さについて、通常の生活はもちろんのこと、避難路としても非常に重要ということで、国の代行事業でやってもらうなかで、かさ上げについても要望しているところである。検討結果については未だ国から示されていない。現時点ではまずは片側交互通行の解消など、普通に走れるように災害復旧を進めてもらっており、並行して道路のかさ上げの高さの検討も行っているため、早い時期に示せるのではないかと考えている。

【意見・質問等】

[redacted]の復旧については莫大な費用が必要となり単独では難しいと考えられる。当面の措置として、[redacted]や国に、ＤＭＶというものがある。これは最近四国で運用が始まっていると新聞で見た。ＤＭＶを実証運行で走らせれば、観光面でも観光推進につながるのではないか。ＤＭＶは鉄道の線路が残っている被災していない部分は鉄道を活用し、被災した部分は道路を活用できる車両のこと。実証運行などの具体的な要望を[redacted]や国に出していかないと、単に復旧してくれというばかりでは、恐らく[redacted]も国も莫大な費用がかかるため動かないのではないかと考えられる。この[redacted]が開発した車両があり、以前[redacted]でも数年前に走行実験が行われたと記憶している。ただ復帰してほしいではなく具体的にこうしてほしいといわないと鉄道は復旧しないだろうと思う。

【回答】
いただいたご意見について、この場でそうする等のお答えができかねるため、ご意見があったということで承りたい。

【意見・質問等】
坂本支所周辺まちづくりの土地利用イメージ図を見ると、支所や災害公営住宅から少し離れた場所に駐車場が配置されている。支所のすぐそばではなく離れたところにしか駐車場はないのかという疑問が浮かんだ。やはり利便性を考えれば支所等の目の前に駐車場があったほうがよい。また、そういった点を含めれば、銀行、郵便局も別棟の建物ではなく、同じフロアに配置してもらったほうが利用しやすい。利用者にとって利用しやすい、一貫性のある施設づくりを検討してもらいたいと思うがどうか。

【回答】
県道を挟んで対岸に駐車場ということが記載されているが、それは実際に利用しにくいのではないか、というご意見であると思う。図上でピンクに着色している区域の中には日常使いできる程度の駐車場は確保することを予定しており、日常使いでは支所やコミュニティセンターに車を横付けして利用できるようになる。川側の駐車場については、例えば以前のコミュニティセンターでも大きな集まりがあるときには駐車場が不足する状況もあり、また今後検討する緑地で賑わいを創出するといったことも念頭に置いた駐車場という位置づけである。またそれぞれの施設がバラバラであるとのことだが、施設管理者がバラバラであるため一つの建物の中に配置することは難しいと考えている。しかし極力雨に濡れずに各施設と行き来ができるようなものになるよう、できれば一か所に集まって利用しやすいようなまちづくりを進めたいと考えている。

【意見・質問等】
県道中津道八代線で生名子～深水川口間は車が通行できないが、この間の整備の予定について質問したい。国道２１９号線の坂本から原女木の間が土砂で崩壊した場合、迂回道路は二見まわり。今現在この水害に伴い、高速道路の坂本ＰＡを利用できるようにしてもらっている。これは住民にとって大変ありがたいことである。今後もこのような対応もできるかと思うが、やはり国道２１９号線の迂回道路として県道中津道八代線を活用できるように早急に整備してもらいたい。新幹線や高速道路等を建設することができる現在の土木技術をもってすれば可能なのではないか。また、坂本ＰＡについては、スマートＩＣなどとして通行できるようにしてもらいたい。

【回答】
中津道八代線の生名子深水川口の不通区間については、合併時からの坂本町の皆さんからの要望事項

として行政としても賜っており要望活動を続けてきたが、今回の災害の際には、ご指摘の通り、迂回路・避難路としても重要ということを再認識しているため、国にも改めて要望したい。坂本ＰＡについても国と協議を進めているためご理解いただきたい。

以上

～午後の部～

【意見・質問等】

坂本支所周辺まちづくり学識者懇談会の検討結果についてだが、学識者は住民の話は直接聞いたのか。被災した方は怖くて同じ場所には戻れないと言っているにもかかわらず、やはり同じ場所に作るのか。主な理由として河川の洪水に対する安全性の確保と言っておきながら、防災拠点の整備の中では支所機能が喪失した場合に備えて、というあり得ない想定をしている。支所は支所機能が喪失しないところに設置すべきではないかと考えるため、もっと安全なところがあるのに、どうしてもこの場所に建てるということと、河川の洪水に対する安全性が高いということが書かれていることにやはり納得いかない。避難先の確保と新たな防災拠点と支所の決定の理由が相反しているからどうなのかと思った。当日、坂本中学校には１００人近くの方が避難していたが、正式に開設された避難所ではないからということで名簿も作られなかった。しかしやはり避難せざるを得ないため避難所として使用避難所に指定されているにも関わらず避難所じゃないという取り扱いになっていた。避難しているのに避難所じゃないとされていた。今後どうするのか。建物が被災しなくても、結局道が使えなくなったりする可能性もあるため、その時の想定はどうするのか。当日どういう被害があって、みんなどういう逃げ方をしたのか。どういう判断をしてなぜ避難所に行かなかったのか、そういう検証がなされていないため、それを示されないまま、検証されないまま、結局避難所や新たな防災拠点とか避難ルートとか言われてもなんかちょっとピンとこない。そこをちゃんと検証してほしいなと思う。復興まちづくり計画案について、地区別懇談会でも言ったが、８地区でまちづくり計画をつくるのは分かるが、そもそも坂本町としてのまちづくり計画のようなものがなく、いきなり８地区で作ってくださいね、ということで始まったため、かなり違和感を感じていた。共通のまちづくりで同じようなことをそれぞれの地区で行っていることもあるため、坂本町全体としての共通のまちづくり、全体的なまちづくりがあって然るべきだと思う。そこは共通で、皆同じようなことを言っているようなところもあると思うため、共通のまちづくり計画があってもいいのではないか。地区だけで取り組むわけではない。特に住民自治協議会の方が一生懸命されているのに、復興計画のメンバーには入っているものの、住民自治協議会が町全体で取り組まれていることも全体のまちづくりとして入れていってもらいたい。菜の花フェスタ等や、ワイワイパークも中谷地区だけの問題ではなくて、藤本地区にも関係する。スマートＩＣ等を活かしたまちづくり、道の駅、八竜天文台等既存の施設についてほぼ記載がないように感じるため、そういうものを活かしたまちづくり。全体的な、もともとあった既存の施設を活かしたまちづくりというものがあったうえで、地区ごとのまちづくりがあるのかなと思う。地区ごとは、地区の振興会や市政協力員が中心になるのかなと思う。全体は住民自治協議会で一生懸命されているため、そういうものをはっきりすみ分けして示してもらえれば取り組みやすい。また地域おこし協力隊の話も全体のまちづくりの計画の中に書いていってほしい。他所の市町村、県内外を含め、３月いっぱいのギリギリまで募集をされているのにも拘わらず、結局募集をやめられましたよね。それがもったいなく思う。せっかく予算を取って、２名募集であったのに、２名募集をしていない。それは継続して募集していってもらいたい。

【回答】
被災した支所と新たな防災拠点について齟齬があるとの指摘であるが、坂本支所については昨年度から検討を行っており、５つの候補地のなかで復興計画を策定する際の地域の皆さんのご意見で一番多かったのが現地再建ということだった。併せて早期の再建や、まち機能の集約化といった趣旨のご意見も多くいただき、そういったことから昨年度開催した有識者検討会での検討結果や球磨川水系緊急治水対策プロジェクトによる安全性の向上なども踏まえて３ｍ程度のかさ上げを行っての現地再建を決定したところである。学識者懇談会については、昨年度の有識者検討会と同じメンバーに入ってもらっており、メンバーは坂本町の復興計画策定時の策定委員会の委員や部会の参加者が主であり、坂本の被災状況などについては十分ご理解いただいている。支所再建については日常使いを重視したが、今回新たな防災拠点を行っているのはいわゆる「想定最大規模」の降雨があると坂本町全体に相当範囲の被害を及ぼすことが懸念されることから、それに対応するための防災拠点について、昨年度有識者検討会の附帯意見への対応として検討している。昨年度の復興計画が坂本の今後の復興を進めていく上で坂本町全体としてどのように進めていくのかを取りまとめているところであり、暮らしコミュニティの再生、産業経済の再生、社会基盤防災の再生の三つの視点から坂本の令和２年７月の豪雨からどういった復興をやっていくかということを議論してきた。全体としては復興計画に基づいて取り組みを進めており、地域おこし協力隊についても皆さんの要望を踏まえて今年度から取り組みを進めているところである。

【回答】
地域おこし協力隊について、今回の募集が期間的にもったいないという話だと思うが、地域おこし協力隊の採用については「お試し地域おこし協力隊事業」で２泊３日の体験してもらったうえで面接を行い採用することとしており、採用までに若干の時間が必要であるため２月末までの早めの締切としたところである。来年度も２名分の採用の予算を要望しており、不足する分については来年度早々で再度募集して必要な人数を確保したいと考えている。

【回答】
坂本中学校について、避難所としての指定をしていたが職員がたどり着けなかったという問題もあった。避難所についてはその都度、開設する避難所を確実に情報として届けられるようなアナウンスをやっていきたい。避難所までの道が寸断した場合については、住民の皆さんに当時どうしたかといったことをヒヤリングして、玄関先まで水が来て垂直避難しかできなかったといった実態も把握して重く受け止めている。やはり早期避難が最も重要であり、令和３年度の運用については、大雨が夜間に降るようなことも含めてそういう状況が考えられる場合には明るいうちに避難情報を出して早めに避難所を開設するなどの運用に改めたため、今後も早期避難への協力をお願いしたい。

【意見・質問等】
国際的な情勢のところからの観点も含めて改めて質問したいのだが、ロシアがジュネーブ条約を破り、原発の攻撃に入った。加えてＩＰＣＣ、国際的な気象についての研究をする機関が、より災害がひどくなるという気象予測を修正して出した。より激しい災害が常態化するという予測が出ている。何を言いたいかというと、安全安心のまちづくりの中で、坂本に住む住民として必要だという考えをもって、幾度も、幾度も要望をしていた、瀬戸石ダムが決壊した場合の、またはそれに準ずる大事故が起きた時に対するハザードマップを作ってもらいたいという要望を常にあげていたが、安心安全に関してのまちづくりの中で、必要な最低限の項目であると認識して４回にわたる懇談会の中で何度も、パブコメでも何度も声を届けてきたはずである。３月４日に瀬戸石ダムについての市長の動きが

ホームページ上に掲載されたが、そのようなことを求めていたのではない。八代市にハザードマップを作って欲しいとお願いしたのであって、瀬戸石ダムを持っている[redacted]に作ってもらいたいという要望ではない。愛知県の入鹿池の例を事前に出したのは、市に作ってくれという強いメッセージであった。住民の生命、財産、危険、リスク、色々なものに対する不安を馬鹿にするのはいい加減にやめてもらいたい。というような強い言葉を選ばざるを得ない状況になってしまった。非常に残念である。国際情勢が大きく変わっている中、テロリストに狙われる施設ということでダムに対する認識も変わったのではないかと思う。原発すらも攻撃対象になってしまった。最悪何かあったときに、逃げることができれば助かるのだ。愛知県の入鹿池のような決壊した時、もしくは大規模崩落が上流付近で発生しダムを壊さず、且つ大量の水が下流に流れた場合に、避難のためのセンサーとアラートシステムを作ってもらうか、もしくはダムを撤去、瀬戸石ダムの存続は不可という市としての判断を出すかのどちらかを、必ずしてほしいと強く願う。それが安心安全なまちづくりの根幹にあって然るべきだと考えている。左岸の田上については瀬戸石ダムの決壊、もしくはそれに準ずる大きな災害が起きた際には、漠々プランとして恐らく被災しないだろう、と予測が立つと考えられる。しかし本流右岸側、支所再建の場所に関しては破局的な災害もしくは攻撃を受けたときに、何分後に逃げないと助からないのか、そこに避難していた人たちがまとめて亡くなるようなそういう状況も起こり得る可能性もある。なぜここまで強く言うかというと、瀬戸石ダムにお願いしても無駄だという結論を我々は持っている。なぜなら、越流した事実をリアルタイムで下流に届けなかった、そういう管理者に何を期待したらよいのか。そのため、行政に、八代市に作ってもらいたいと、４回にわたる地域協議会で私は声を出していたつもりであったが、一切反映されていない。４回目でようやく支所が対応してくれて、何らかの対応をとるとのことの結果が、大変不十分なものであったという認識しかない。国交省に対しては、瀬戸石ダム地点の基本高水の修正のポイントとしてどのくらい上がったのかという質問したが、回答保留のまま、現在も回答保留である。かなり日が経ったので明日にでもホームページにあげていただけないか。よろしくお願いしたい。また川幅を広げてくれという声は、この安心安全という観点から幾度も要望していたが、ゼロ回答という結論になっているのではなかろうかと思う。何度もあがっていたと思うが、川幅を広げてくれ、ではなく、川幅を戻してくれ、という場所だけでも戻した場合にどれだけ水位が下がるのかの検証を、大至急、国と県と市で一緒になって、学識者、流域治水の専門家を交えて、流域治水の概念に沿った形で再度検討をお願いしたい。これは４回の懇談会の中でも、ずっと言ってきたことである。全てにおいて誠実な回答をいただけたという実感がほとんどない状態のなかで、新しいまちづくりを考えなければいけないという、絶望的な気持ちでいる。前を向いて一緒に復興の新しい地域づくりを考えていく楽しい時間にしたいと常に思っている。どうか誠実な回答をお願いしたい。地域おこし協力隊については、色々と変更もろもろ前向きにプラスにやっていくことが必要だという回答をいただいた。担当者も良い実績ができなかったのであれば人員配置のことも含めて、増やす方向で、サポート体制や、それに詳しい外部の方をてこいれするというような人員配置も含めて、現状の担当者をサポートするような、そういう人員配置を含めて復興のまちづくりの賑わいづくりを含めていろんなアイデアを前向きに良くしていく方向で検討していけないか。最後に一点、今回、災害公営住宅を整備するということで、本日も行われているが、旧藤本小学校と旧中津道小学校の解体に向けて、内部にある廃棄物になるようなものを、関係人口構築のため、もしくは地域の思いを残すために公開していただいたことをありがたく思っている。この件に関してはただただ感謝ということで、この場を借りてお礼を言わせてもらいたい。行政と喧嘩をしたいわけではない。クレームを言っているつもりもない。安全安心な地域づくりについて思っていることについて的確な回答をいただきたい一念である。真摯な対応を、切にお願いしたい。

【回答】

いただいた意見についてはきちんと受け止めていたつもりではある。今回瀬戸石ダムの [redacted]に要請した背景について、ハザードマップを作成する、しないの前に、安全性がどうであるかということが肝である。そこを考慮して、まずは安全性についてどうであるのかということを [redacted]からきちんと説明してもらうという趣旨で今回の要請に至ったところである。先ほど指摘があったダムが壊された場合については、附帯意見として [redacted]に、こういう状況の時はどうなるのか、ということを、再度今回の要請とあわせて [redacted]に質問を投げかけたい。

【回答】
地域おこし協力隊について、先ほど申した通り、地域の方には色々とご意見等も含めてご協力いただいているような現状であるが、令和３年度については、２名の採用予定のところ、結果的に２名の応募があったが採用までには至っていないということが現状である。指摘の通り体制を含めて検討しながら、皆さんの意見をいただきながら、早めに採用ができるよう努力をしていきたい。運用も含めて、十分活動ができるように行っていきたいと考えているため引き続き協力をお願いしたい。

【回答】
以前から引き提、川幅を元に戻すという意見をうかがっていて、また私もその場で回答している。これまでも地域と皆さんと話をしながら、宅地かさ上げまたは輪中堤を地域でやらせていただいたうえで現状があるということである。令和２年７月豪雨を受けて様々な治水対策を上流でもやり、ご当地でも掘削等を実施しても十分に水位が下がらないところについては、更なるかさ上げや輪中堤をやっていくということで、地域の皆さんと一緒に検討させてもらっている状況である。過去の経緯等も踏まえて、現状のような輪中堤や宅地かさ上げ対策を含めたプロジェクトを実施していくということである。

【意見・質問等】
恐らくここにいる人の一番の課題は、河川の安全性向上と輪中堤やかさ上げにより自分が住んでいるところがどうなるかに不安を感じている。復興計画等にはあったが、聞いていたのはかさ上げ・輪中堤と道路がどうなるのかといったことである。本日は国交省もいるので、今後のかさ上げと輪中堤について、堤防は２ｍぐらい上がると聞いているが、我々はどうすればよいのか、国交省から何か言われるまで待つしかないのか、全体的な流れを説明願いたい。また、国交省は球磨川本流である。以前も言ったが、市が管轄の谷川や川、谷など一番被害を被ったところについて、市としてどういった対策を実施するのか全く見えてこない。この点も含めて説明をいただきたい。

【回答】
先ほど司会からも説明があったが、各地区で地区別懇談会等を開催してもらい、可能な限り国交省も参加して皆さんからの意向を伺っている。宅地かさ上げと輪中堤の大きく２つの手法があるということで、地区全体としてどういった意向があるのかを確認しているところである。意向を伺いながら設計を並行して進めているため、地区としての意向が固まったところから設計を行いながら説明や協議の場を持たせてもらいたい。そういった協議の中で用地や補償などについても説明していきたい。

【回答】
藤本地区については八代市経由で互いに協力しながらしている。１０日の木曜日１３時３０分から協議をさせて頂く予定になっている。

【回答】
市の管理河川についても昨年度豪雨災害からの復旧に対して全力で取り組んでいる。いくつか地域の皆さんから谷川が水の道になって溢れたといった指摘もあるため、まちづくりの輪中堤や宅地かさ上げ等を進めるなかで併せて内水の処理についても対応を検討している。

【意見・質問等】
２年前の４月に関東から引っ越しをして中津道に移り住んだ。その３ヵ月後に被災した。まず驚いたことは、球磨川の水の綺麗さであった。このような綺麗な河川は、多くの河川がある関東にはひとつもなかった。また星の数も関東と比べて１０倍以上くらい多く感じた。本当は沖縄のほうで移住先を探していたが、ご縁があり八代で中古物件を購入して、余生をここで過ごすと決めた。最初に御礼を言いたい。自身は高台に自宅を購入したため、７月豪雨災害では被災をしなかったが、水道、ガス、電気、電話、鉄道すべてがだめになり、避難所の八代総合体育館でお世話になった。２ヵ月間、本当に至れり尽くせりで、ずっと住んでいたいなと思うくらい良くしてもらった。八代市に感謝している。要望がひとつだけある。自身が車を持っていないため、中津道から１時間半かけて自転車で八代市街地まで買い物に行っている。肥薩線の復旧について、ＳＬ人吉等の観光列車を走らせるといったアイデアもあると思うが、肥薩線は被災前から大幅な赤字であった。恐らく仮に復旧したとしても、多くの乗客が利用しない、自動車で通勤する、ということになるのであれば、鉄道を復旧するよりも人吉からのバス便を優先的に確保することを早急にお願いしたい。坂本支所などにもバス便が運行されても乗る人はいない。今も[redacted]さんが送迎してくれるが月・水・金曜日、片道１６０円で送迎してくれるが、１日２便、確か朝８時と、帰りは昼頃となるようでは、ちょっとした買い物や診察であればよいが八代市街地の飲食店を利用したい場合は少し厳しい。自身が７０歳近いため、年齢的にも買い出しを自転車で往復して行くということは厳しくなってくるため、乗客が少ないかもしれないが、定期バス便を出してもらいたい。坂本と関係ないが、球磨川の本流はありがたいことに堆積土砂をかなり積極的に運んでもらっているが、吉尾川等の支流も本流と同時対応もお願いしたい。

【回答】
公共交通機関の充実ということでご意見をいただいた。乗合タクシーを運行しているが、お話を聞くと、使い勝手が悪いということでお預かりさせていただく。利用しやすいように、そのためには皆さんにもぜひご利用いただいて実績を上げていくというのが非常に大事であるため、機会を捉えてぜひご利用いただければと思う。支流も土砂撤去について、本流だけではなく支流についても大量に堆積しているところや危険なところを優先的に対応しているところである。状況を確認し、河川管理者にお伝えする。

【回答】
本日は道路部門で来ているが吉尾川は県が管理しているので、芦北地域振興局の方で対応させて頂いている。こちらから芦北地域振興局の方に伝えさせていただく。

【意見・質問等】
自身は八代に住んでいて、母のことでこういう場に来ている。さかもと笑顔フェスタというものの案内が母のところに来ていて、自身も参加しようと思っているが、坂本町の住民しか参加できないようになっている。折角まちづくりというのであれば、八代市内の人にもそういうのがあるということを発信してもよいのではないか。はっきり言うと、八代市街地に住んでいて、坂本に縁のない人は、坂本が今どういう状態なのか全然分かっていない。同じ市内なのにさみしく感じる。例えば、八代であ

っているスリデーマーチのなかに坂本をいれてもらえたりすることなどで、八代市街地在住の興味がある人に少しでも坂本町を見てもらう機会を持ってもらうほうが良いのではないか。

【回答】
実施主体は住民自治協議会であり、笑顔フェスタに名前は変わっているが、実際は第５回の開催である。自治協議会からはコロナの問題も含めて参加者は町内限定でやりたいということで聞いているが、支所としてはこういう事業を坂本でやっているということを啓発として情報発信してはどうかという意見を伝えている。いただいたご意見についてはこちらから住民自治協議会に伝える。

【意見・質問等】
国土交通省に、瀬戸石地点の基本高水の数字、回答すらなかったが、回答をよろしくお願いしたい。瀬戸石ダムに関して、八代市危機管理課から[redacted]が安全であると主張していることは、公式発表で知っている。そうではなく管理体制の不誠実さで危ないと申している。[redacted]にダムが安全であるかどうかを聞くのは不要である。安全かどうかを聞くのではなく、あなたがたの管理体制に不備があるため対応をお願いする、という毅然とした対応をお願いしたい。今回のような社会課題を解決するためには、徹底的な情報共有と科学的な情報の共有積み上げ、合意形成に関しての丁寧さというものが、結果的に税金が一番安く済む手法であるという学術的なことは公共の仕事をしている皆さんには自明のことと思う。その上で言わせてほしい。これまでの協議会の議事録をホームページにアップしてもらい感謝する。回答者の肩書を明記することをお願いしたい。誰が回答したのか、一切わからない。回答する人の名前と肩書、それが分かれば、質問するときに安易である。市長の回答すら、市長が回答したことが分からない形の議事録はやめてもらいたい。当然メモには誰が発言したか、皆の手元には残っていると思う。このような情報公開の手法について、もう少し良いやり方をやってもらいたい。今回の会場に関しても、コロナということもあるが、広い会場であればより多くの質問を受けることもできたのではないのかと、もちろん寒い、寒くないといった問題はあると思うが、大きな会場であれば問題解決したのではなかろうか。情報共有の仕方、本当に、こんな状態ではよろしくないと思っており、本日は録画してケーブルテレビで流すということだが、みなし仮設の本日来ることができなかった、業務などの都合で参加できない方、コロナ対策で人の集団のなかに来られない方などもいるため、いろいろな方がＷｅｂでの同時配信と質問の受付という形のやり方を望んでいるのではなかろうかと思う。ここにいる市民に対して開かれた場で情報発信するのであれば、それをＷｅｂにのせてもなんら問題はないことだと思う。それを含めてより開かれた、より公共性の高い、開かれた情報共有の能力の高い、坂本を離れた方でも見たい方はたくさんいらっしゃる。土地を持っている、空き家を持っているが住んではいない、でも土地に対してふるさと納税をしているような方もたくさんいらっしゃるため、そういう方々に対しての開かれた情報共有の仕方をぜひ次回から、こういう会議はすべて実装してもらいたい。大きい会場、もしくはＷｅｂでの対応、全てがまだまだこれからだと思うので以上の点の改善を何度も言っているが改めてお願いしたい。

【回答】
河川整備基本方針の見直し、河川整備基本計画の策定などのなかで流量がどのぐらいか、ということであるか。

【意見・質問等】
基本高水が情報修正され、横石地点は公表している。それでは瀬戸石地点はどれだけ変わったのかという数字を出してほしい。前回も質問した。

【回答】
基準地点のみ公表している。

【意見・質問等】
当然、瀬戸石地点も上方修正されているという認識でよいのか。数字こそ出ていないが。

【回答】
その点は、私が責任を持って後ほど対応したい。現在資料を持ち合わせていない。

【意見・質問等】
それは前回お伝えしていたので、なるべく早く公共の場で回答をお願いしたい。公共の場で、文書で回答をお願いしたい。

【回答】
説明会の運営の仕方についてご意見頂戴した。会場について、寒い中での坂本中学校体育館での開催で体調を崩されたといった意見もあり、今回コミュニティセンターで開催させていただいた。また、まん延防止措置の期間が終了する見込みであったことから、この会場とさせてもらった。今後のＷｅｂでの配信についてはこの場でやるとは言えないため預からせてもらいたい。

【意見・質問等】
以前も質問したが、中津道の鎌瀬橋について、国道・県道の高さがどうなるか、県道が今後どのように変わっていくのかということを質問していたが、以前は検討中とのことだったが、現在の時点でどのようになっているのか分かっている範囲で回答いただきたい。また鎌瀬橋から上流の中津道橋の少し先まで測量が行われている。宅地かさ上げ・輪中堤について、中津道としては輪中堤でお願いしているが、昔からあった河川に降りる道について、何か所かあるがそれについてはできれば残してもらいたい。

【回答】
橋の高さが概ね決まりつつある。国交省の八代復興事務所で取り組んでいるため確認する。地域の皆さんに説明する機会があると思う。

【回答】
坂路についてのご要望は、前回１２月末か１１月末に地域に入った際に伺っていて、八代復興事務所の道路のほうにも伝えて、堤防から坂路にかけて併せて計画を行っているため、日程と併せて整い次第、八代市と説明に入っていくこととしたい。

【意見・質問等】
先ほど、藤本については３月１０日に説明会をやるといった話があったが聞いていない。どの程度の人に情報提供されているのか。例えば、公費解体をして更地になっているところでも、藤本はどうなっていくのだろうか、かさ上げをしてもらえるのだろうかと心配している方がいる。こういう会合で逐一連絡を取れていない方でも、こういう想いの方はたくさんいらっしゃると思う。今回も、[redacted]さんが言ったように、情報がなくて、地域のポイントポイントでやられてしまって、それで話が進んで

いくということは虚しさを感じる。３月１０日はどれだけの人を集めて行うのかなと疑問に思う。回答をお願いしたい。もう一点、モバイルクリニック事業については、新しい取り組みで期待をしている。一方では支所の再建にあわせて医療機関が設置されるまで、しかし医者が来てくれるまでしばらく時間が必要である。この関係というものは、一過性のものなのか、あるいはモバイル事業がうまくいけば、支所には医療機関が不要になるのか。どのような展開の仕方をするのか、支所が整備されたあとの医療体制がどのようになるのかを聞きたい。みんなが使いやすくなるようにしてもらいたい。毎日回ってくるのか、一週間に一回しか来ないのか。こういう部分の展開の仕方を説明してほしい。

【回答】
各地区で説明会等に入っており、１０日の１３時３０分は藤本地区で開催予定である。藤本地区は、自治会長を通じて皆さんに連絡していただくということでお願いしているが、連絡が届いていないという指摘であったため、自治会長と話をさせてもらい、また坂本支所に藤本地区の担当者を２名配置していて、その担当者とも密に連携を取っているため、改めて確認する。直近の地区別懇談会、地区の皆さんとの意見交換の場として、１０日の藤本地区、１３日の午前１０時には大門地区、１３日の１３時３０分には今泉、このように随時、地区の代表の方、自治会長と連携を取り、自治会長さんと連絡を取りながら、国・県と連携して進めていくこととしている。

【回答】
デジタル医療 MaaS については九州では初の取り組みとなり、全国では長野県で初めて実施されている。支所周辺のまちづくりの中で医療機能を確保するが、こちらも同時に展開していきたいと考えており、一過性のものとは捉えていない。他での活用も考えている。今後、動かしながら検討していきたい。

【意見・質問等】
モバイルクリニックについて、新しく医療機関ができるまでの間のことだと思うが、イメージとして医療機関と患者さんの間を看護師がつなぐという形になるのではないかと思うが、医療機関かかりつけ医になるのか、あるいは別の医療機関になるのか。

【回答】
坂本は郡医師会が管轄しているためその医師会の先生と相談して、ということになるが、例えば[redacted]先生が見ているところには[redacted]先生の看護師さんに車両に乗り込んでもらって巡回し、先生とつないでいくといったことを想定している。現時点でははっきりと言い切ることはできないが、循環診療や訪問診療をされている先生方に相談しながら進めていこうと考えている。かかりつけの先生が一番良いので医師会とも相談しながら決めていきたい。

【意見・質問等】
自身が看護師をしていたが、健康寿命を全うするうえで、医療機関との信頼関係が重要だと思う。[redacted]先生が、坂本町でも往診や訪問診療を活発にしていただいている。[redacted]先生から聞いたところによると、最期は坂本に帰りたい、坂本で最期を迎えたいという患者が多い。患者が坂本に帰ってくると元気になって、すごく良い顔になる、と聞いた。やはりそういう力があると思う。安定した慢性疾患の患者が対象になると思うが、高齢化が進んで健康に不安がある方も多いと思う。坂本で最後まで暮らせるような医療が重要である。また、できる検査等も限られているため、この部分はかかりつけ医との連携も重要になる。坂本の中に医療機関があることが一番だとは思うが、難しいと思うため、こ

ういう取り組みがあれば、慢性疾患の安定した患者が状態を保つことには有効だと考える。

【回答】
[redacted]先生は市外も含めて非常に精力的に取り組まれており、行政としてもそれ以上のより良いサービスができるように取り組んで行きたいと考えているが色々と調整が必要であるため、協議会を立ち上げて検討していきたい。

【意見・質問等】
まちづくり計画について、どれだけ担保されるのか、書かれていることがどれだけ実現されるのか。地域と行政の役割が記載されているが、どこまで進めていくのか。中谷地区の地区別懇談会で坂本ＰＡをスマートＩＣにするという話があったと思う。坂本のワイワイパークは県外からもたくさん人が来て、連休の時は子供連れなどもたくさん来ていたため、スマートＩＣにしてもらえれば坂本に住めなくても交流人口は確保できるのではないかと思う。災害時のアクセスとしてではなくスマートＩＣとしての活用を考えてもらいたいと要望したつもりであった。ここに書かれていることがどれだけ実現される可能性があるのか、自治振興会が行うのか、できるのか。振興会自体も人が減って大変な中どこまで地域に分けてできるのか大変疑問があり、坂本町全体でやるべきことといった位置づけもあったほうが良い。復興計画は、推進します、支援します等といって、大きな話がかなり書いてあってボリュームが大きく分かりにくい、つかみにくいため、やはりそのなかでまちづくりとして全体的なものがあってよいのではないかと考える。坂本町の住民も分かるような計画にしてもらいたい。

【回答】
まちづくり計画の担保について、市役所関係各課に確認を取りながら計画をとりまとめているため、いろいろの形で予算をかけないとできないこともあるが、相談に乗るなど、予算がなくてもできるため、そういった形で行政の役割を果たしていきたい。坂本ＰＡは将来的にはスマートＩＣということで考えているが、まずは安全・安心の確保のために災害時のアクセスということで記載している。ただし、整備後の利活用としては市としても地域の振興に活用していきたいと考えている。復興計画は多岐にわたっていて見づらいという指摘があったが、復興計画のロードマップでは重点的な８つの項目、２８の事業を進捗状況が見えるような形にしてホームページで公開しているため、プリントアウトしたものを支所に置くなどして復興計画の中でも重点的な取り組みの見える化を図りたい。坂本町全体の取り組みについて、どうすれば地域の振興につながるのかといったことについて、今後も地域の皆さんと一緒に意見交換をさせてもらいたい。

【意見・質問等】
先日たまたま昔の広報誌を見たが、八竜天文台や道の駅を作るときの紹介だったが坂本が新しい計画に取り組むというワクワク感が広報誌全体にあふれていた。そこまではいかなくても坂本に残っている人、被災した人、坂本町の市民にも坂本は復興するのだということ地区ごともあるだろうが、全体的なものもあればいいと思う。直接地区ごとにしなくても坂本を応援したいと思うような概要版ではないが、ロードマップだとちょっと、行政的にはロードマップは必要だと思うが、住民が分かりやすいようなものがあってもいいのかなと思う。また、地域おこし協力隊の人も、他所から来られてわかるようなイメージのものがあったらいいのかなと思う。結局一人も残られなかったのか。地域おこし協力隊は一人応募があったと思うが。

【回答】

地域おこし協力隊については、令和３年度は２回募集して、それぞれ１人ずつの応募があったが、いずれも自己都合で辞退しているため令和３年度については１名も採用には至っていない状況である。

【意見・質問等】
デジタル化の話があまりなかった。医療についてはデジタル医療というものがあったが一番すべきは防災関係のデジタル化ではないかと思うが、避難所などの話しか出てきていない。そこをどうやってつなぐのか、職員がいけなかったときにどうするのかということをやはり今最もすべきなのではないか。地区別懇談会でも言ったが、結局前日に開設しても誰も行かない。何回も同じことをやっている。だからこそ集落ごとに避難所があったほうが良いのではないかという話になる。自主避難所という位置づけだとは思うが、住民が本当に避難できるような、避難しても良いと思うような避難所があってもよいし、被災したら何ヵ月も家には帰れないため、その辺を踏まえて避難所の運営や整備を考えてもらえればと思う。

【回答】
防災分野におけるデジタル化については検討を行っている。具体的には、避難所における顔認証システムを活用した受付などの実証実験や、避難のきっかけについてデジタル技術を使ってあらかじめこういう状況になったら逃げるのだということをお知らせするようなシステムをスマートフォンなどでお知らせするような仕組みづくり、併せて近くの避難所を教えたりして早期避難を促すような仕組みづくりができないかを業者と検討している。ただ、実装の時期については色々と問題や課題があるため明確に申し上げることはできないが、検討を進めているところである。

【回答】
防災分野のデジタル化について、八代市ではデジタル化推進基本計画を定めており、これはパブリックコメントをかけて公表している。今の課題は避難所をどういった形であまり手間をかけずに便利にしていくか、避難生活が快適になるかということで、まずは顔認証の実証実験を昨年実施した。来年度に向けては、長期にわたって避難するということになっても避難先でも情報が入手できる、市からどんな情報が提供されているか分かるような仕組みを検討している。避難のタイミングについても着実に事業を進めており、もともとマイタイムラインや避難スイッチといったものを市の広報に６月頃に掲載しているが、これをデジタル化するということで周囲の方がどのぐらい避難しているのか、どこまで水が来たのかといった情報を提供することで避難を促し、また、避難すべきタイミングになったが人が実際に避難したかどうかなどを、遠くの親族も安否確認できるようなものにしたいと考えている。いずれも令和２年７月豪雨の課題と捉えているため、まずはそういった部分を改善したいと考えている。

【意見・質問等】
個人個人の話もあるが、避難所同士の連絡が取れているのか、取れていないかといった基本的なことをしてもらいたい。坂本中学校に避難していることは分かっているのに、市役所の職員に聞いても知らない、と言われたことがとてもショックだった。そういうことはもう絶対あってもらいたくはないということである。

【意見・質問等】
自身は坂本支所の少し下流に住んでおり、水害で家もない。個人的なことだが、いつも私たちが思っているのは、ここはこの後どのようになるのか、といったことばかり考えている。まだ地区の中にも

持ち主に連絡が取れずに住宅がそのままになっているところが何軒もある。昨年話し合いの時に行政の力を借りないと解体をお願いするにも連絡が取れず、そこが進まないとかさ上げも輪中堤もスタートラインにも立てない状況であるため、行政の力を貸してもいたいということで以前からお願いしていた。昨年、親が亡くなった。まだ供養も済んでない３ヵ月も経過していないうちに「リサーチセンター」というところから、写真付きで、お宅は空き家をどうするのか、といった書類が来た。３ヵ月しか経っていないのに。２年前の災害のことであれば、もっと早く連絡なりをしていただくことができるのではないか。復興まちづくり計画には空き家の利活用などの記載もあるため、早く連絡をして判断をしてもらえれば、利活用にもつなげられるのではないか。そして他の地区でも同様に連絡を早くしてほしいと思っていると感じる。

【回答】
公費解体が昨年度中の事業だったため、所有者が分からないものなどについては市役所が市政協力員やご近所の方々に聞いて、公費解体の期限が迫っていることをお知らせしたところまでの経緯は存じ上げている。発送元が地域支え合いセンターでではなくて「リサーチセンター」というのは聞いたことがないため、確認させてもらいたい。他の集落もできるだけ公費解体の期間を積極的にお知らせするように努めている。

【意見・質問等】
３回目だが、本日参加できなかった方からのメッセージでの質問がある。もっと参加しやすいかたちをとっていただければと思う。まちづくり計画の中に林業についての新しい取り組みについて、災害が起きたところでは特に球磨川流域に限らず大規模な災害が起きた時に崩れにくい、山を崩しにくいリスクの低い林業に行政が支援するような仕組みを整備するところが増えている。今のところそのような林業に対する補助の政策があまりよく見えないが、熊本県の議会が動いてこれからいい形になるという話を少しずつ耳にしているが、どうか八代市もそれを主導できるような、壊れない森づくりをするような林業について優先的に支援をするような、そのような取り組みをまちづくりの中に取り入れてもらえればと思う。そういう希望を持てるようなものになれば林業も新しい担い手が地域に入るということにもなると思う。国交省が本当に可哀想である。山からどんどん土砂が流れてきて道路に堆積して一生懸命道路から取り続けなければならない。国交省が単独で対応できることではなくこれこそ流域治水であり、山を崩しにくい、土砂を出しにくい山づくりに対する優先度を高めるような政策をまちづくりの中に反映してもらいたいという要望と原稿案の改善についてきている。それについての見解をもらいたい。先ほど質問があって気づかされたが、荒瀬ダムを撤去するときに大量の堆積物を全て陸上から直接搬出することが難しいということで、残置をして自然流下において土砂除去をするというような事業がある程度行われていたと記憶していて、見えるところに大量の土砂が残った状態で令和２年７月の水害を受けたというふうな見解を持っている。水害後に再度現地を見たところ荒瀬ダムがあったときに積もり積もった堆積物が全部流れたのではないかと思ったが流れていない。それにより釣天広場近辺の荒瀬ダム時代にたまった堆積物はまだ残っている。田上側に防災拠点を置くということで、二見経由のルートとして重要なところになるが、県河川だと思うが、市民の過去、昔住んでいた方々の声を丁寧に拾って、昔の川底の状態はどうだったのか、荒瀬ダムの後に土砂、団地がどのぐらい残っているのか、今一度市と県で一緒に検討してもらって、釣天広場の下についても荒瀬ダム時代にたまった土砂がまだある。それを優先的にとるようなことをやってもらいたい。県河川が予算がないというならば、先ほど質問があった吉尾川は芦北の、八代とは管轄が違うが瀬戸石ダムが土砂を貯めていることを県の税金で執り行う必要はないので、県が土砂を取ったとしても請求書を[redacted]にまわせばその分税金が浮くわけであるので、それをもって荒瀬ダムの時代に残った土砂

の除去を行う事業に使うことを検討してもらいたい。自然に溜まるのではなくダムが貯めるものについて歴史的な検証を再度お願いして、税金の的確な活用と重点的な田上の防災対策について八代市として戦略的に、川の中の土砂を県河川の方になると思うが、支流の百済来から鶴喰の合流地点までの区間、なるべく早くとってもらいたい。自然流下は期待していたがあまり流れていない。その結果、田上のあたりは水位が高くなったのではないかという疑問があるが検証すら行われていないため、ぜひ市民と一緒になって科学的蓄積をもって、情報共有をもって土砂の除去を引き続き進めてもらいたい。これは切にお願いしたい。田上については戦略的にとても重要な場所だということを理解したためそれについての検討、回答をおこなっていただければ大変ありがたい。昭和２４年の米軍の撮影の映像と、過去の記憶、もう一度照らし合わせて、昔の土砂がどのような低さにあったのかというのを安全と安心のために暮らしやすいまちづくりのために政策に反映してもらいたい。

【回答】
復興まちづくり計画について、林業への支援ということで、壊れない森づくりに向けてといった趣旨で記載している。また、八代市では市独自の施策で、伐採したところに必ず苗を植える取り組みをはじめているということも水産林務課から聞いており、そういったことが壊れない森づくりに繋がると考えるため、そういった取り組みについてはぜひ記載したい。補助関係についてはそういうご意見があったということで水産林務課へ伝えさせていただく。

以上